

# 【ねがいましては】

平成25年9月25日

KYOWA SCHOOL

第275号

「意識」

ある早朝、久しぶりのテレビ番組に目が止まりました。「テレビ寺子屋」という番組なのですが、川村妙慶さんという方の説法だったのです。

「ウサギとカメのお話で、なぜウサギがカメに負けてしまったのかおわかりになりますか。」という問いかけでした。「実は、ウサギが負けたのはカメを意識してしまったからなのです。」

それを聞いて、「これだ!」と思いました。

まさにウサギにとってカメは勝ってあたり前の存在です。どんな走り方をしても負けるはずがない。ウサギの意識の中には、「カメなんか・・・・。」といった意識があったことは確かです。

人の世界もこれに同じ。子どもたちの日常生活の中でも同様なことは起こっています。成績という評価の中でうごめいている彼らの感情は、まさに『意識』花盛り。テストが返却されるたびに「あの子は何点かな。勝ったかな、負けたかな・・・・。」意識が駆け巡ります。「またか・・・・どうせ私なんか何やっても無理に決まってるし・・・・。」この子は今までの自分を意識しています。

小学校への入学、1年生たちはワクワク気分です。時間の経過とともに徐々に表情に変化が表れ始めます。

1. 合うことは良い、間違えることは悪い。
2. 知ってることは良い、知らないは悪い。
3. 速いは良い、遅いは悪い。
4. 100点は良い。0点は悪い。
5. 宿題を終わらせて来る子は良い、やっていない子は悪い。

現代は結果主義の世の中。どんな方法でも、儲かれば勝者です。そうは思いたくないという方が多くいらっしゃると思います。私もその一人。だからこそお金が入ってきても、こころが貧乏な方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

さきほどの1～5への見方を変えてみます。

1. わからないので適当に選んでおいたら合ってしまった。これもよし。では、わからなくて選ばなかった子は悪い。
2. わからないから学校へ行っているはず、学校へ行く前から知っているのでは、学校へ行く意味がない。
3. 速く終わって提出した子の字を見てみたら、解読不可能な雑な字でも良い。
4. 100点とって鼻高々・・・・「ここ教えてよ!」と誰かが来ても、「やだ!」と、跳ね除けても良い。  
0点とって、いつも教室のゴミをひろったり、笑顔の絶えない子は悪い。
5. 宿題を30分で雑に終わらせてくる子は良い。宿題に3時間かけて、でも終わらなかった子は悪い。

まだまだたくさん出てきます。

今の自分が精一杯に生き切っているか。今の自分が今までの自分よりわずかでも成長しているか。自分のことだけになってしまっていないか。他人の心に目を向けているか。他人の心の痛みに寄り添っているか。他人がニコリと微笑んでくれそうなことをしてあげているか。

わたしにはどうしても防ぎたいことがあります。

夢膨らませて入学した新一年生たちの笑顔が、時間の経過とともに少しずつ薄れてゆくことを・・・・。

これは紛れもない大人たちの責任です。重大な罪を犯しています。それでも健気に笑顔を作り続ける彼らたち・・・・。

「悪い事をしなければいいんでしょ!・・・・だったら何もしなければいいんだよ・・・・。だから動かないでいるよ。」

学校へ行かない、働かない・・・・ニートさんたちはきっとまじめすぎるくらいにまじめなスタートを切ったと思います。でも、「何なんだこの世の中は・・・・。」嘖然としているうちに動きを止めてしまったのかもしれない。

ここ最近、時に目立ってきたことは、動かない子たちが多いということです。ダメでいいじゃないですか。とにかくやってみましょう。とにかくチャレンジしてみましょう。だってあなた方は青春真っ只中じゃないですか。

意識のない心はどんなことを・・・・。「100点だったんだ、おめでとう。」と、こころから祝福してあげます。

「宿題でわからないところがあつたから、わかりませんでしたって書いておいたんだ。」「先生が読みづらいとかわいそうだから、ゆっくり書いていたら時間がきちゃつた、へへへ。」「あの子は0点とって笑顔でいられる、すごいと思う。」

「意識のない、皆が助け合つて、皆が笑顔でいられて、皆がひとつになつていられるクラスにいたいな。」

そんなクラスで勉強がしたいな。

結構近づきつつあるかもね! 意識したらしあわせさんになれませんか。

きょうも涼しい風が教室に漂います。静かに時間が過ぎていきます。マイペースな時間が穏やかな風景を作ります。

皆さん、これからもご協力よろしくお願いします。ありがとね!